

## 仕事と子育ての両立を応援します!~病後児保育室スマイルのご紹介~

総務課 横堀 智子

平成25年1月より、佐倉市の事業として東邦大学佐倉看護専門学校の隣に「病後児保育室スマイル」がオープンしました。

病後児保育施設とは、病気の回復期にあるお子さまを一時的に預かりする施設です。「病気からは回復してきたけれど集団生活は少し心配」、あるいは「熱は下がったけれど、まだ登園停止期間で…」といった場合に利用することができます。利用には、かかりつけ医からの許可(佐倉市病児・病後児保育事業診療情報提供書)が必要です。保育室では、保育士1名と看護師1名が常駐し、お子さまの体調に合わせた保育をいたします。

地域の皆様に頼られる病後児保育施設となるよう、努めてまいります。

尚、ご利用には佐倉市子育て支援課への事前登録および、当施設での事前面接を要します。利用対象者は佐倉市在住もしくは佐倉市内の保育施設に在園の園児です。当施設での事前面接については、下記にてあらかじめご予約をお取りください。

- 面接受付時間 9:00~17:00
- TEL.043-462-8860 病後児保育室スマイル



### 外来受診のご案内

- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:30  
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日(6月10日)  
年末年始(12月29日～1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811  
予約変更専用 043-462-0489(平日14時～16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ  
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

### 編集後記

眼科の柴友明です。昨年より編集部に仲間入りさせていただきました。佐倉病院眼科に入局して今年で15年目を迎えます。当眼科では私が最古参になってしまいました。今年は稀に見る大寒波、積雪でした。特に2月の大雪ではシャトルバスが朝からストップし、ユーカリが丘駅から雪の中歩いて病院まで行ったのが強く印象に残っています。4月を迎える今年は暖かい小春日和が続くこと、平穏な1年であることを祈っております。

# SAKURAdayori



## 東邦大学医療センター 佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

## 患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

## 体罰報道と心の病

副院長 黒木 宣夫

いた。」という記者会見の監督の言葉は衝撃的でした。すなわち全柔連は、同監督が成果をあげた結果を重視するあまり、個人の人格がどれほど傷つき、心の奥底まで傷が残ることは、考えてもいなかつたのではないでしょうか。

某組織内で「認定基準」に合致するパワーハラスメントに遭遇した後に自殺未遂を図った労働者の事案に関し、調査のなかで加害者である上司自身がパワーハラスメントを認めないと、組織もパワーハラスメントを認めないと上司を擁護する態度を表明した事案を経験しました。上司は非常に優秀で組織の中でも評価されており、その上司の将来を考えての判断だったようです。今回、女子柔道の園田監督のパワーハラスメントに関して、暴力行為が昨年9月の時点で発覚していたにもかかわらず、全柔連は容認し、監督続投を要請、全柔連は園田監督に戒告処分をして留任させる方針でした。しかし、同監督が1月31日に辞意を表明したため辞任となりました。オリンピックで成果を上げたことへの評価は評価として、選手達の一人一人の人権を尊重しながら目標に向かって邁進する過程がもっとも重要であり、自殺や心の病を発症させないためにも、成果をあげるためだけのハラスメントは、決して許されるべきではありません。ある目的のために組織されたプロジェクトや団体が、目標に向かって成果をあげるべく努力をしているからという理由で、その上司や監督が、部下や選手の人権を軽視して良いということにはならないのではないかでしょうか。



# 眼科市民公開講座を終えて



眼科 柴 友明

眼科市民公開講座「知っておきたい加齢に伴う眼の病気」を、2月23日(土)に行わせていただきました。現在の日本において、加齢に伴う代表的な眼疾患とされている加齢黄斑変性、白内障、緑内障について解説をしました。それぞれ、加齢黄斑変性は谷口ひかり先生、白内障は出口雄三先生、緑内障は芦澤純也先生が講演を行いました。

これらの病気に罹病されている方、またそうでない方も多数ご来場されたと思いますが、市民の皆様が私どもの講演を非常に熱心にお聞きになっていたことが、印象深かったです。白内障や緑内障については、認知度が高い疾患ですので、皆様の経験談に基づいた質問が多く寄せられました。さらに、加齢黄斑変性では、ノーベル賞受賞で話題になっているiPS細胞の加齢黄斑変性患者への移植や、加齢黄斑変性発生の病理等の質問があり、市民の皆様の疾患に対する知識が高いことに驚かされました。

私自身も谷口先生と一緒に加齢黄斑変性外来を行っていますので、「市民の皆様によりよい助言ができるよう、もっと勉強しておかなければ!」と焦燥の思いを抱きました。



谷口 ひかり 先生



出口 雄三 先生



芦澤 純也 先生

## 2013年 市民公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
5月11日(土)	地域で考えるケアと治療 「歩行障害と共に歩む～診断と治療」	神経内科・脳神経外科・整形外科 薬剤部・リハビリテーション部・看護部 メディカルソーシャルワーカー
6月29日(土)	「ロコモティブシンドロームと運動器不安定症」 ～ロコモ予防で健康寿命を伸ばしまましょう!～	整形外科
7月27日(土)	「しひれば怖くない(仮)」	神経内科・脳神経外科・整形外科 薬剤部・リハビリテーション部・看護部 メディカルソーシャルワーカー
9月28日(土)	「がん撲滅キャンペーン」	外科ほか

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

# 東邦大学医療センター3病院主催 医療安全ワークショップを開催して



院長補佐(安全管理担当) 龍野 一郎

## 「チーム医療」が医療を安全にする

近年、医療の高度化や先進化に伴い大学病院では診療分野・診療領域の細分化や再編成、例えば臓器別診療科の登場や従来の枠組みを超えた化学療法部・臨床腫瘍部などの新設、また医療従事者である医師・看護師・薬剤師などでも専門職化が進んできています。診療の高度化に伴い診療技術や薬剤の進歩はめざましく、診療行為は複数の医療職がかかわる、より複雑性が増したものになってきています。このような複雑性が医療安全の観点からは有害事象の発生リスクを高めていると言わざるを得ません。

有害事象発生リスク増加を分析してみると、その根本原因には医療従事者の専門的知識や技術に関する事象(テクニカルスキルと呼ばれ、手術方法・抗がん剤の使用方法などが代表的なものです)よりも、医療チームのコミュニケーション不足やリーダーシップの欠如(これらのこととはノンテクニカルスキルとよばれます)が深くかかわっていることが多く、大きな問題となっています。

欧米において、このようなチームのコミュニケーション障害による安全の問題は戦後多数の航空機事故を通して航空業界で広く認識され、パイロットを中心とした運航にかかるチームが使用可能なすべての情報源を有効に活用し、十分なコミュニケーションを取って安全に運行を行うという概念(CRM: Crew Resource Management)が形成されてきました。そして、CRMに基づいたチームトレーニングによって、安全運航の推進が行われてきています。このような航空業界のCRMという概念を取り入れ、医療用に米国で開発されたものが“チームSTEPPS”というチーム医療を推進するためのプログラムです。この中では、「リーダーシップ」「状況モニター」「相互支援」「コミュニケーション」が4つの医療の安全を担保するための重要な行動指針(コンピテンシー)として取り上げられています。

東邦大学医療センターでは3病院医療安全管理部門合同でこのチーム医療推進プログラムのコミュニケーションに焦点を当てた体験学習型トレーニングを推進してきました。このプログラムは厚生労働省委託「平成24年度チーム医療普及推進事業」に採択され、この1月20日(日)に佐倉市(ウィッシュトンホテル・ユカリ)で医療安全管理ワークショップ(「チーム医療」が医療を安全にする)として、開催させていただきました。こ

のワークショップには当院を含め千葉県内の16医療機関、80名の多職種の方々(医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・医療事務など)が御参加され(写真)、成功裏に終了することができました。

今回のワークショップでは、コミュニケーションを円滑に行うための技法として、「twoチャレンジルール(一回で伝わらなかったら勇気を出してもう一回言う)」「CUSS(自分の懸念を伝える)」「SBAR」「コールアウト(声だし確認)」「チエックバック(再確認)」「ハンドオフ(引き継ぎ)」「ブリーフィング(事前の打ち合わせ)」「デブリーフィング(振り返り)」などのコミュニケーション技術を学び、病棟で起こる実際の事例を基にこれらのツールを使った寸劇を作り、実際に演じることによってコミュニケーションスキルを磨くという体験型学習を行いました。全11グループ(1グループに7~8名)に分かれて、研修の後、寸劇を創作し、発表をしていただきました。そして、ワークショップ終了時には受講者全員に山崎純一東邦大学学長からの受講修了証を授与させていただいています。

ワークショップを終えた参加者の皆さんアンケートから「複数の医療機関から多職種の方が参加するチーム医療の基礎トレーニングとして極めて有用だった。」との高い評価を頂いております。今後はこのようなチームトレーニングを受講した医療従事者が各病院で体験型学習によるチーム医療のトレーニングを広め、最終的には千葉県地域全体でチーム医療に基づく医療安全文化が醸成されて行きますことを期待しております。

今後とも皆様の医療安全に対するご理解とご協力、並びにご支援をお願いいたします。

